

タイの民政移管に向けた総選挙について
一般調査報告書

タイでは、2014年に起きたクーデター以降、軍主導の暫定政権が続いていますが、今月24日（日）に、民政移管に向け8年ぶりとなる下院総選挙が実施され、大きな混乱なく投票が終了しました。

正式な選挙結果は、5月上旬に予定されている新国王の戴冠式後に発表される予定ですが、選挙管理委員会から発表された小選挙区の暫定結果では、反軍政でタクシン元首相派の「タイ貢献党」が議席数で第1党となり、現在のプラユット首相（軍出身）の続投を目指す親軍政党「国民国家の力党」は、得票数では最多だったものの議席数では第2党となっています。

これまでタイでは10年以上政治的な対立が続いており、2006年にクーデターでタクシン氏が失脚した後、タクシン派、反タクシン派に分かれデモや憲法裁判所による解党命令などの混乱が起きました。

2011年の選挙ではタクシン氏の妹であるインラック氏が党首を務めていたタイ貢献党が勝利しましたが、2014年には再び軍によるクーデターが起き、軍主導による暫定政権が現在まで約5年間続く状況となっています。

また、2016年には国民から敬愛されていたプミポン国王が崩御されるなど、タイにとって大きな出来事も続きました。

軍による暫定政権下では、当初、爆弾事件などがあったものの、その後の治安は比較的安定しており、タイ経済は政府による公共投資や経済対策などから2018年のGDP成長率が約4%と順調に回復してきています。

今回の選挙では、こうした実績を背景に、軍出身のプラユット首相の続投を目指す親軍政党「国民国家の力党」を中心とした政治の継続を支持するかどうかの争点となっています。

(主要政党概要)

党名	概要
国民国家の力 (パランプラチャーラット) 党 	親軍政党。党首は前工業大臣のウッタマ氏。首相候補は現首相のプラユット氏。
タイ貢献 (プアタイ) 党 	タクシン派の主要政党。党首は元保健相のスタラット氏。主に東北部、北部が地盤。
新未来 (アナコットマイ) 党 	党首は自動車部品会社大手サミットの御曹司タナトーン氏。バンコク首都圏の若年層に人気。
民主党 (パラチャーピハット) 党 	保守派の代表政党。アシピット氏が党首だったが、今回の選挙結果で負けた責任をとり辞任。主に都市部や南部が地盤。
タイ名誉党 (プームチャイタイ) 党 	東北部の一部など、地域の有力な政治家が中心の中堅政党。党首はアヌティン氏。

タイでは上院 250 名、下院 500 名の 750 名が定員となっていますが、上院は特別経過規定により選挙は行われず、国家平和秩序評議会 (NCPO) が選抜名簿を作成することから、事実上、現在の軍政によって任命されることとなります。

首相指名は両院の過半数で決定するため、現政権寄りとなることが予想される上院の 250 名と合わせると、今回の下院選挙で親軍政党の「国民国家の力党」を支持する勢力が 126 議席以上を獲得すれば、現在のプラユット首相を引き続き首相とすることが可能となります。

下院定数のうち小選挙区は 350 議席、比例代表は 150 議席の配分となっており、今回の選挙制度では、投票した 1 票で小選挙区も比例代表も選出されることとなっています。また、小選挙区での獲得議席数が一定割合を超えると比例代表が配分されない仕組みとなっており、特定の政党だけが多くの議席を獲得するのが難しく、また小選挙区で勝てない中小規模の政党が比例で議席を獲得する可能性が相対的に高まると言われています。

選挙期間中には、「国民国家の力党」はタクシン派政治家の引き抜きを行うなど、同派の支持基盤の切り崩しなどが行われているとも言われています。

また、タクシン派も、解党リスク回避や比例議席拡大を目指し、姉妹政党である「タイ国家維持党」を立ち上げましたが、同党の次期首相候補に国王の姉であるウボンラット王女を擁立したことから、「王室の政治利用」を理由に憲法裁判所から解党命令が出されるなど、激しい選挙活動が行われました。

(街中に掲示された候補者の選挙ポスター)



選挙管理委員会による暫定速報（3月25日時点）では、主要各党の小選挙区での獲得議席数は、「タイ貢献党」が137、「国民国家の力党」が97、「タイ名誉党」が39、「民主党」が33、「新未来党」が30となっています。比例議席数はまだ発表されていませんが、現地マスコミの予測では、小選挙区、比例を合わせた獲得議席は下記の通りとなっています。

(主要政党の下院獲得議席数予測)

政党名	小選挙区	比例代表	合計
タイ貢献党	137	0	137
国民国家の力党	97	20	117
タイ名誉党	39	12	51
民主党	33	20	53
新未来党	30	50	80
その他	14	48	62
合計	350	150	500

(Bangkok Biz News)

今回の選挙結果の特徴としては、「国民国家の力党」が得票数で1位となり支持を伸ばしたことや、保守派の代表である「民主党」が大きく議席を減らしたこと、そして背立間もない「新未来党」が大きく躍進したことなどが挙げられています。

「国民国家の力党」が120議席程度確保できる見通しとなったため、上院の議席数を合わせるとプラユット氏が引き続き首相をとなる可能性は高くなったわけですが、今後、下院で重要法案の審議など議会運営を円滑に進めるためには、下院での過半数を確保するため他党との連立が不可欠となります。

一方、反軍政を掲げる「タイ貢献党」も下院での主導権を握るため、他党との連立を目指しており、連立交渉の結果次第で、議会運営が混乱し政策が進まなくなることも懸念されます。

なお、5月に発表が予定されている比例代表の議席数に加え、選挙違反などで各党の獲得議席数が変化する可能性もあり、また、連立協議に向け各党間で激しい駆け引きも予想され、今後のタイの政治情勢は予断を許さない状況が続きます。

タイには多くの日系企業が進出しており、各企業でも今回の選挙動向を注視しており、今回無事に投票が終了したことに安堵する声も聴かれますが、選挙における各党の公約や発言には、最低賃金の大幅な引き上げや企業進出の恩典制度（BOI）見直しなど、企業活動に大きく影響するものも含まれています。

当センターでは引き続き、今回の選挙結果や動向、日系企業への影響など注視し、情報発信してまいります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。